

大雨と大泣き

昨日は、医学部時代の同級生仲良し5人組で集まった。半年～年に一回は集まって、いま悩んでいることや進捗について、心情を吐露できる貴重な会だ。

そこで出た話。同期の優秀な仲間が昨年末にG Cしたという。あまりに衝撃的で、まだ全員に周知できてないという。全く知らされていなかった僕は、ひどく動揺した。でも、その場では泣くような雰囲気ではなかったし、事実を知っても、淡々としていた。医者は、仕事上で、しばしは驚くような事実に出くわすことがあるが、ポーカーフェイスで乗り切らないといけないので、その場では動揺しないように訓練されているだけかもしれない。その話を打ち明けた友人が泣いているのを見て、その子の昔話をしたりして気丈に振る舞いはした。

僕が涙ぐんだのは、その次のトピックだった。同期が兄の代わりに親の後を継がないといけなくなって、兄貴はもっと兄貴らしくしてほしい。中内のように長男オーラが出ているような兄だったら、こんなに苦労しなくて済むのにと心情を吐露した。そして、生まれつき長男オーラがある奴と無い奴がいるんやろうなと言われたので、いや育てかたやと思うと反論した。

僕の人生で一番最初に訪れた兄としての転機は、弟が生まれたことだった。それまでは、母とべったり松山で暮らしていたのだったが、ある日突然、祖母が僕を大阪に連れに来た。母は「あなたはお兄ちゃんになるのだから、もう甘えられないのよ。」と言った。僕は一言「わかった。」と言い、涙も見せずに祖母と一緒に飛行機で伊丹へと帰ったらしい。僕の一番幼い記憶は、このときの大阪の夜景だ。弟とは3歳違いだから、いままで45年間兄貴を演じてきたわけだ。質問に答えた自分は長男として育てられてきただけで、最初からはそんなオーラはなかったはずだ。僕ももっと弱い人間でもいいはずだ。そこが自分の心のツボを押した。あまり人前では涙を見せないようにしているが、酒の力もあって、ついウルウルとしてしまった。

そして、11時ころ家に帰って、よっぱらって熱くなっている自分の身体を冷やすために、フローリングで寝た。酔いが覚めて目覚めたときに、結構覚醒してしまうでしょう？夜中2時頃に水を飲むために起き上がり、気持ちわるくなって吐いた。それが心の堰を切ったように、そのあと泣いても泣いても、涙が止まらない。ちょうど雨が激しくなってきた、家族にも知られることはないだろうと、思う存分に泣いた。鼻すすりから、グスングスン、ウワーウワー、最後は泣き疲れて、笑いが出るまで。まるで子供の喧嘩だ。泣き止むまでに2時間くらいかかったかも。人生初の大泣きか。

友を失った悲しさ、仕事の右腕兼母親を失う悲しさ、そして自分の立場を少し理解してもらえた安心感。そんな3つが合わさるなんて滅多にない。友達にしか言えないことを相談できる相手がいるのはまだ幸せか。茶化さずに本音で語れる人、大事です。